

2014年5月19日

赤穂工場自家用火力発電設備にて下水汚泥固形燃料の使用を開始

住友大阪セメント株式会社（本社：東京都千代田区、社長：関根福一）は、4月より、赤穂工場（所在地：兵庫県赤穂市、工場長：中川藤外志）の自家用火力発電設備の燃料として、下水汚泥固形燃料の使用を開始しました。

下水汚泥固形燃料は、下水汚泥から製造された炭化物であり、石炭の代替燃料として使用します。大阪市平野下水処理場にて汚泥固形燃料化事業を手掛ける特別目的会社「株式会社バイオコール大阪平野」様より調達し、年間約900トン使用する予定です。

当社では、主に栃木工場と高知工場にて、火力発電用燃料として木質バイオマス燃料の活用を進めてまいりましたが、下水汚泥固形燃料の使用は赤穂工場が初めてとなります。

再生可能エネルギーの更なる活用によって、二酸化炭素の排出量削減と、天然資源の使用削減に繋げてまいります。

《赤穂工場自家用火力発電設備概要》



発電出力 102,500kW を誇る当社グループ最大の火力発電設備。主な燃料は石炭を使用しており、赤穂工場のセメント製造用電力等の全量を賅うとともに、余剰電力は外部に供給しており、地域社会における電力の安定化の一端も担っている。

【本件に関する問い合わせ先】

総務部 IR 広報グループ TEL03-5211-4505 FAX03-3221-4652